

令和7年度 第1回 松戸市病院事業経営改革委員会 委員からのご意見・ご提案（抜粋）

	件名	内容	病院事業の回答（今後の検討事項含む）
1	医業収益の拡大について	DPC入院期間Ⅱ以内の退院患者割合がなかなか上がってこないのはどういう理由か。	病院全体としては平均在院日数は短縮傾向であるが、当院は予定入院より緊急入院の割合が多く、全国的な入院期間の短縮と比べると、短縮度合いは少ないと思われる。 医師会とも連携し、後方連携の充実を図っていきたい。
2		手術室の稼働率を上げるにはボトルネックはどこか。	手術室が8室しかない中で、緊急用に1室を確保していることなど、手術室の効率的な運用については改善の余地があると考えている。合わせて、手術適用の患者を増やす取り組みを行い、手術室稼働率の向上を図りたい。
3	救急医療の強化について	二次救急応需率について目標より大きく下回った原因は何か。	二次救急に関しては、平日日中の応需率改善などに取り組んだが、取り組んだ時間帯の応需率は改善したものの、全体の応需率改善には至らなかった。 今年度は改善の取り組みが実を結び、R6年度の66%を大きく上回り80%を超えている。
4		救急を受け入れるほど収益が悪化するのか。	緊急入院は予定入院より収益が落ちるが、空床よりは少しでも救急患者を受け入れた方が良いと考えている。
5	周産期・小児医療の強化について	小児病棟の稼働率について、90%としているが、これは適正か。繁忙期には成人病棟で受け止めるなど人口推移を考慮しながら病院全体で考えていく必要がある	松戸市の人口構成では小児は減少しているが、小児入院医療は東葛北部医療圏で6割のシェアがある。松戸市以外では流山市や柏市などから多くの入院患者を受け入れており経営面では厳しい状況もあるが、当院はそのような役割を担っており、適正と考えている。
6		小児周産期医療を頑張っている印象であるが、小児病棟の稼働率が落ちたのは、子供が少なくなっているという理解で良いのか。入院症例は減ってきているのか。小児病棟増床の理由や現場の感覚をお聞かせいただきたい。 小児病棟の利用率についてR4年度の目標値が97%になっているが、やはり90%くらいが現実的か。	野田、流山など近隣市で小児入院医療機関が減っているため当院の需要は増えている。入院患者は増えているが、増床した分稼働率は落ちてしまったのは努力の余地がある。 少子化の影響もあるが、近隣市の医療機関の状況を考えると当院の需要は増えると予想される。 子供の病気予防や事故予防は進んでいて、重篤化する子供が減ってきているのは確かであるが、R5年度のように感染症が流行した場合は稼働率が90%を大きく超え、成人病床を借りる場合もあったため、R6年度に54床から63床に増床した。結果的に稼働率は88.8%にとどまったが、今後現場の感覚的には9割前後の稼働率を保つことはできると考えている。
7		小児病床について、増床して88.8%は十分頑張っている。90%が限界ではないか。非常によく努力されていてA評価でも良い。	今後も近隣市の状況なども踏まえ、柔軟に対応していきたい。
8	地域医療連携推進について	医療機器の共同利用件数が減っている理由を放射線診断医の影響としているが、全体の管理は組織や事務が行ってはいかがか。	読影医の確保に努めるなど、体制を整えていきたい。
9		医療機関訪問について、625件の訪問件数は素晴らしい。予定入院を増やす取り組みとして大事なポイントであるが、すぐに入院患者増として収益に反映されるのは難しく、少しタイムラグがあると思う。	医療機関訪問の一部を業務委託したことで訪問件数は増えたが、入院患者を増やすため、医療機関からいただいた声を病院の運営に反映させ、紹介患者をしっかりと受けていくという仕組みの構築とセットで取り組んでいきたい。
10	人材育成について	東松戸病院からの受け入れがあったが、なぜ看護職員の時間外勤務が増えたのか。	東松戸病院から異動した職員に対し、異動前に複数回の研修を実施していたが、異動後もOJTを行っており、それによる時間外勤務が発生したことや勤怠管理システムの導入により、より正確な勤務実績の把握ができるようになったことなど、複数の要因が考えられる。
11		初期研修の受験者数が178人は全国的にもすごく珍しいことで称賛できる。マッチングは千葉県内でも上位であった。	今後も選んでいただける病院となるよう、体制を整えていきたい。